



3 学期のスタートにあたって

2 学期期末考査を終えて、学校のカレンダーは 3 学期になりました。年末年始休業もあり、日数的には短い 3 学期ですが、現状の課題を見つけ今後の改善につなげる好機です。

◆ 1, 2 年次の基礎学力は大学合格に直結する

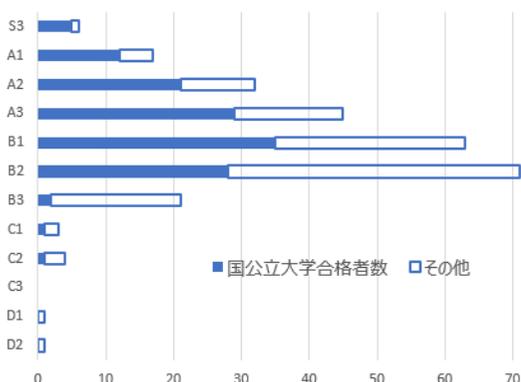
これまで学習時間と学力は明確に比例することを示しました。けれど、皆さんは「1, 2 年生の学力は受験とは関係ない」とか、「受験勉強さえ始めれば成績は伸びる」などと勘違いしてはいないでしょうか？ 今回は基礎学力と受験学力の関係を伝えようと思います。

下記は、国公立大学合格者数の多かった昨年度（2023 年度）卒業生のスタディーサポート（英数国）の結果です。1 年次に A3 以上の成績に達していると合格率が高いこと、逆に B2 以上の基礎学力を身に付けていないと合格はかなり難しいことがわかります。また、3 年春には、最低 B2 以上の成績を残さないと希望の進路に合格することが難しいことがわかります。

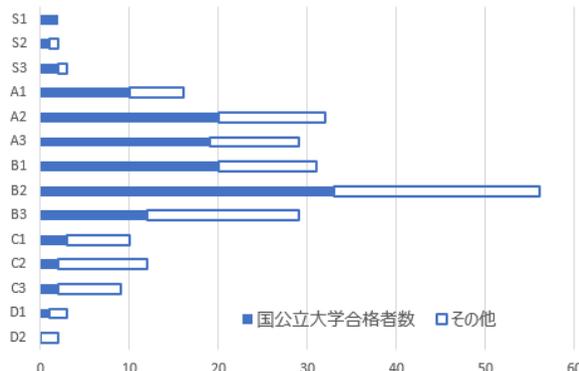
また、個別のケースをみると、1 年生から 2 年生にかけて A 1 以上（難関大の目安）へ向上させ合格した先輩がいる一方で、実力を B 3 以下に下降させ、結果的に残念ながら不合格につながった例もあります。つまり 1, 2 年次からの「基礎学力の不備＝学習時間の減少」で、つまづいたケースが多く見受けられました。

1, 2 年次の地道な学習で培われる基礎学力こそが、あなたの進路希望を実現します。これから春まで 4 ヶ月、「基礎学力の養成」を学習目標にしてください。とくに 2 年生は新年を迎えると、自分が受験する共通テストまで残り 1 年間のカウントダウンが始まります。そのため、これからの 2 年 3 学期を「3 年ゼロ学期」と呼び、1 月からは本格的な受験勉強をスタートする予定です。まずは大学入試を意識して日々の学習に取り組むことから始めましょう。

< 1 年秋の基礎学力と国公立大学合格者数 >



< 3 年春の基礎学力と国公立大学合格者数 >



12月の目標

共通	土曜日・日曜日の学習室を利用して学習習慣を維持する。
1年生	期末考査の結果に向き合い今後の高校生活を展望する。
2年生	3年ゼロ学期突入、本格的な受験勉強の準備をする。

1年生が本校の一員となった今年も、早いもので残すところ1ヶ月余りとなりました。本格的な寒さが到来する時期ですが、体調管理に留意して、元気に一年の締めくくりに臨みましょう。

◆探究合同発表会…12/7(木)、14(木)

総合的な探究の時間の成果発表会です。7日の発表では2年生全生徒が1年生に向けてグループ発表の形でこの一年間の探究活動を発表します。14日には2年生の代表者による発表会を実施します。この1・2学年とも年間の取り組みの集大成となります。ぜひ有意義な2日間にしましょう。

◆2学期成績会議…12/13(水)

成績会議では、全校の先生方が君たち全員の成績に目を通します。答案の返却とその追試はもちろん、単位修得に必要な課題レポートや作品の提出が求められている生徒もいることでしょう。中学校とは違い、高等学校の進級・卒業のためには単位の履修と修得が必要ですが、これは大学ほか上級学校のシステムとも同じです。真剣に取り組みしましょう。

◆保護者懇談会…12/20(水)～26(火)

「2学期通知票」「各模試の結果」「来年度選択科目」「進路希望調査」などをもとにして、2学期の高校生活を振り返り、新年に備えます。

◆12/28(木)～1/8(月) 冬季休業

27(水)終業式からは、冬期休業となります。冬期休業を有効に利用して、休み明けの「実力テスト」や「記述模試(1/20)」を目標にして、計画的に学習を進めましょう。



今月の3年生 「特編Aで最終の実戦力養成を目指す」

1月13日、14日の大学入学共通テストまで50日を切りました。3年生は期末考査以降、受験直前期の学力養成を目指し、特別編成授業に突入します。共通テストは下表のような長丁場で、受験には学力だけでなく気力と体力も不可欠なことが分かりますね。1、2年生も気遣いをもって、3年生を応援しましょう！

【お願い】

- ・昼休みを除く休み時間、本館廊下では静粛にすること。
- ・情報教室には本館3階を通らずに、図書館前から本館西階段を利用すること。

*特に1年6組の皆さん、よろしくお願ひします。

共通テスト1日目	共通テスト2日目
地歴公民2科目 9:30～11:40	理科基礎2科目 9:30～10:30
地歴公民2科目 10:40～11:40	数学① 11:20～12:30
昼休み	昼休み
国語 13:00～14:20	数学② 13:50～14:50
英語リーディング 15:10～16:30	理科②2科目 15:40～17:50
英語リスニング 17:10～18:10	理科②1科目 16:50～17:50

12月		
1金		
2土	○ 大学模範講義[2] キャリアガイダンス[1]	※
3日	○	※
4月		
5火	A	
6水		◎
7木	探究合同発表会[1・2]	
8金	入力締切	
9土	○ 駿台ブレ共テ[3] (希望者)	※
10日	○	※
11月		
12火	P 学年成績会議	
13水	成績会議 5分短縮	◎
14木	探究合同発表会[1・2]	
15金		
16土	○	※
17日	○	※
18月		
19火		
20水	①②③	
21木	①②③	
22金	A ①②③	
23土	○	※
24日	○	※
25月	①②③	
26火	①②③	
27水	A ①②③ 終業式	☆
28木	○	
29金	○ 閉庁日	
30土	○ 閉庁日	
31日	○ 閉庁日	

※印は自習室開放日

キャリア探究の季節は続きます

季節はすでに信州らしい初冬を迎えています。寒い時期は、自己を見つめなおし、これからの進路とキャリアをじっくりと考えるには季節です。11/24（木）に信州大と諏訪理工大のクロストーク講座、吉田小学校教育体験事業、12/3（日）には信州大人文学部との高大連携哲学演が開催されました。

◆ 信州理系学生キャリア探索事業 信州大学と諏訪東京理科大学クロストーク講座

信州大学と諏訪東京理科大学に在籍する大学生と大学院生（女子7名）と大学生活についての座談会が開催されました。本校の理系2年生28名が参加しました。前半は、大学生の研究テーマについてプレゼンの発表があり、後半は4～5人にグループに分かれて懇談（クロストーク）を行いました。大学での学びを実感し、大学生活をイメージすることができたのではないのでしょうか。



A: (機械電気系) 諏訪東京理科大学工学部・情報応用工学科 研究テーマ「教育工学 ～学習サポートは教員だけじゃない～」
B: (情報系) 諏訪東京理科大学工学部・機械電気工学科4年 研究テーマ「リニアモータの試作と推進・浮上試験」
C: (農業系) 信州大学農学部・植物資源科学コース4年 研究テーマ「深層学習を利用した白紋羽病菌感染枝の分類手法の検討」
D: (建築工業系) 信州大学 大学院総合理工学研究科・建築コース 研究テーマ「全館輻射冷暖房システムを導入した住宅の設計手法に関する研究」
E: (理学系) 信州大学 大学院総合理工学研究科・化学ユニット 研究テーマ「ワイヤレス給電法を用いた新しい分析方法の開発」
F: (教育系) 信州大学教育学部 グループセッションテーマ「コース紹介 (ICT教材開発) など」

◆ 吉田小学校教育体験事業

11月24日（金）、吉田小学校での体験実習が行われました。参加したのは主に教育系への進学を検討している生徒で、例年より多く、1、2年生18名が参加を希望しました。参加生徒は、1年生から6年生に分かれて各学級に所属し、「先生」を体験しました。

授業の観察の他、国語の授業では、読み聞かせや紙芝居などを行い、小学生の子どもたちも目を輝かせて喜んでいました。体育では一緒にドッジボールをやりながら子どもたちの様子を観察しました。また、授業の中で、子どもたちの書き取りを見て丸をつけたり、正しいリズムで手を叩いているかを個別にみたりするなど、貴重な経験をさせていただきました。

小学校では、いろいろな生徒に対して、たいへんきめ細やかな対応をされており、先生方が、向き合う子どもや状況に応じた態度や接し方で手厚く指導されていることを直接見ることにより、“先生”という仕事の難しさを感じる参加者も多かったようです。しかし、それ以上に、教師という仕事の深さや尊さも感じ取ることができた様子で、自身の進路を考えるうえで大きな経験となったことは間違いのないと思います。



◆ 信州大学人文学部との高大連携哲学演習

宮沢賢治の『ビジテリアン大祭』をメインテキスト、ピーター・シンガーの『動物の解放』を補助としながら、「いのち」の価値について、高校生と大学生が議論しました。信州大学の松本キャンパスが会場となり、本校から3名が参加しました。普段だったら他者と話せない深い問題まで率直に話せる場となり、高校生・大学生双方にとって有意義な機会になりました。



タイパ重視は効率的？

一つ危惧していることがあります。「効率」を求める機運が高まりすぎていることです。この機運は高校の中においては、次のような側面から見てとれます。「早く答えを教えてください」「早く点数をとれる方法を教えてください」「どうすればもっと短時間で勉強できますか」。こうした質問をうけることが年々増えてきたように思うのです。

タイムパフォーマンスという言葉が市民権をえるような世の中になってきていますから時代の要請としても「効率」重視も仕方ないところがあります。しかし、です。表面上のタイパだけめざした行為は本当に「効率的」なのでしょう。私はこの点にずっと疑念を抱いてきました。

最近、読んだ本の一節にハッとさせられるものがありました。以下はスピノザという哲学者の考えを紹介する形で述べられたものです。

私たちは何かを理解することがある。「分かった!」と思えるときがある。そのとき、もちろんその対象のことを理解したわけである。たとえば、数学の公式の説明を受けてそのような感覚を得たのなら、その公式を理解できたわけである。

しかしそれだけではない。人は何か分かったとき、自分にとって分かるとはどういうことかを理解する。「これが分かるということなのか……………」という実感を得る。

人はそれぞれ物事を理解する順序や速度が違う。同じことを同じように説明しても、だれしもが同じことを同じように理解できるわけではない。だから人は、さまざまなものを理解していくために、自分なりの理解の仕方を見つけていかなければならない。

(中略) 逆に、こうした過程の重要性を無視したとき、人は与えられた情報の単なる奴隷になってしまう。こうしなければならないからこうするということになってしまう。たとえば、数学の公式の内容や背景を理解せず、これに数値をあてはめればいっただけ思っていたら、その人はその公式の奴隷である。そうすると、「分かった!」という感覚をいつまでもたっても獲得できない。したがって、理解する術も、生きる術も得られない。ただ言われたことを言われたようにすることしかできなくなってしまう。(pp. 391-392. 國分功一郎(2022)『暇と退屈の倫理学』新潮文庫)

高校の中にみられる「効率重視」の動きは、まさにココに述べられる「情報の奴隷」そのものだと思うわけです。点数だけを求め「自分にとってわかるとは何か」を置き去りにしては、こうやったら自分はわかる、という自走する学びを実践できないのですから、結果「効率よく」学べるわけがないのです。

とはいえ、です。3年生の12月ころに至ってはそんなことは言ってられません。2年生は1年後、1年生は2年後です。そのころには、点数をあげるためにどうするかを重視せざるを得ません。だれだって合格は欲しいのですから。つまり、「自分にとってわかる」を獲得するのは「今」しかないのです。

受験生として、将来的には、学生として、社会人として、市民として本当の意味で効率よくものごとを進めていくためにも、「自分にとってわかる」を得るべく、今は表面的なタイパをいったん横において、「時に回り道をしながら立ち止まってゆっくりわかるまで」をぜひ実践してみてください